

木原の海・砂浜・島の自然を守ろう

—「木原ふれあいミュージアム」をつくって自分達の思いを伝えたい—

本単元で育成する資質・能力

表現力 自信・主体性・協働性

- 1 日 時 令和6年7月2日（火） 第5校時
 2 学 年 第5学年1名 第6学年6名 計7名
 3 単元のデザイン

(1) 単元について	(2) 児童について
本単元では、木原の海や砂浜と、鯨島の一部の環境変化について取り扱う。本校ではこれまで「豊かな海」とは何かを問い続けながら海の環境についての学習を展開してきた。「海のゆりかご」とも呼ばれるアマモ（海草）が形成され、海洋ゴミがなく、多様な生物が生息可能な海こそが「豊かな海」と結論づけている。しかし、現状の木原海岸は、発泡スチロールのかけらやプラスチックごみ、金属ゴミや大型タイヤが砂浜に散在している状況である。 そこで、これまでと同じ方法で現状や海洋ゴミに対する願いを伝えるのではなく、児童からの「先輩の願いを引き継ぎたい」「海洋ゴミを減らしたい・無くしたい」という目的と「木原に住んでいる全ての人へ」「木原小学校の先輩たちへ」「木原小の後輩（下級生たち）へ」伝えたいという地域住民に対する相手意識に対応できるような学びとした。そこで、「木原ふれあいミュージアム（仮称）」を開設し、そこで海洋ゴミを減らしたい・無くしたいという自分たちの思いを伝えたい」と校長先生へ説明し、木原ふれあいミュージアムをつくることを許可してほしいことを伝えることを本単元の学習ゴールとする。そして、変化の激しい昨今だからこそ、「先輩の願い」「願いを引き継ぐことの意味」「木原の海を守りたい人々の思い」をより身近に感じられる素晴らしさを実感できる学習としていきたい。さらに、「どうしても見たい」「どうしても聞きたい」「どうしても知りたい」「どうしても伝えたい」「どうしても引き継ぎたい」という思いや願いを引き出す活動を仕組み、児童がドキドキしながらもワクワク感あふれる「木原ふれあいミュージアム」を学習者主体の学びを根底に据えることで実現させたい。なお、本単元は、5年生社会科「環境を守るわたしたち」や国語科「地域のみりょくを伝えよう」「事実と考え」6年生国語「原因と結果」「永遠のゴミ プラスチック」理科「地球に生きる」等の学習とも関連させ、教科横断的に進めていくことができる単元である。	本学級の6年児童は、木原海岸の自然を守るための方法として、ごみ拾いとその分別や3Rを活かして再利用することを社会科や総合的な学習の時間に学んできた。また、「木原の海・砂浜・鯨島」は木原で自慢できる最も重要な存在であることを自覚している。これら自然を守るためにできることは何か、そう思うことの根拠は何かを問い続ける中で、「海洋ゴミを減らすことを訴え続ける」「先輩たちの思いを受け継ぐ。」「後輩たちに自分達の学びやその思いを引き継いでほしい。」「自分たちの願いが続くように活動したい。」と目的意識を高めてきている。広く相手意識をもって伝えることが木原の自然を守るための急務であることを実感し始めた。5年生に関しては、自分たちが木原の自然を守るために活動していることを下級生に引き継いでもらいたいと発言する機会が増えており先輩たちの学習した足跡を見ながら、「この資料をみんなへ見せてあげたい。」「資料を大切にできるよい方法はないかな。」とその価値に気付き始めている。 育成を目指す資質・能力に係る児童アンケートを今年5月末に実施した。表現力に関わって、「相手に伝わるように工夫して話しています。」という問いに対して、60%の児童が「ややあてはまる」と回答し、「理由や根拠を後に付け加えています。」という問いに対しては、100%の児童が「やや当てはまる」と控えめに回答している。児童が自分の表現に対して不安な思いを抱えていることが考えられる。そのため、全児童が「相手に伝わる工夫」について具体的なイメージをもち、単元を通して自らの伸びや変容を実感できるように支援していきたい。 I C T活用に関して、グーグルアプリのジャムボードなどを用いて情報を整理することに興味や関心がある一方で、学習経験が浅く、デジタル上での情報整理に課題や難しさがあるため、適切な支援が必要と考える。
(3) 単元で追究する問い	
①本質的な問い〈何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」〉 ・ふるさとの海・砂浜・島がいつまでも豊かであるために自分たちにできることは何だろうか ②単元を貫く問い〈単元を通して考え深めていく「問い」〉	

・木原海岸のごみを減らし、環境を守るために新しい方法で自分たちにできることは何だろうか ③個別の問い〈単元を構成する授業内で身に付ける知識・技能等〉 ・別の視点から環境問題に取り組む人ってどんな人たちか ・他者の協力を得るために必要なことは何か ・願いを引き継ぎ続ける為に必要な人・物・こと・場の設定にはどのような方法が考えられるか
(4) 指導の手立て
指導に当たっては、本校の目指す資質・能力を育成するために次のような指導の手立てを行う。 話し合いの場において、普段の授業で用いている「学びのステップ」で学習の流れを想起させながら、「自力解決から集団解決での学び合い」までをリーダーを中心に進められるようにする。また、「相手に伝わるような表現の工夫」について、「原因と結果」「事実と考え」「問いかけ」や「ジェスチャー」、「目線」や「声量」「表情」など、児童が具体的に何に取り組めばよいのか分かるような指標を常に意識させた指導を適宜行う。

4 単元のねらい

(1) 単元の目標			
○ふるさと木原の自然環境は様々な要因で常に変化する可能性があり、一定でないことに気付くとともに、課題の解決に向けて、事象を比較する、分類する、関連付ける等の技能を身に付けることができる。【知識及び技能】 ◎ふるさと木原の自然環境から問いを見出し、自分で課題を立て、学習計画を作る。その過程で情報を収集し、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考力・判断力・表現力等】 ◎学習に主体的、協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】			
(2) 単元の評価規準			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年	ふるさと木原の自然環境は様々な要因で常に変化する可能性があり、一定でないことに気付くとともに、ICT等を効果的に活用して情報を収集している。	ふるさと木原の自然環境から問いを見出し、設定された課題の解決に向けて、相手意識や目的意識を明確にして表現している。	学習に主体的、協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。
6年	ふるさと木原の自然環境は様々な要因で常に変化する可能性があり、一定でないことに気付くとともに、ICTや図書等で調べるよさを理解し、使い分けながら情報を収集している。	ふるさと木原の自然環境から問いを見出し、自分で課題や学習計画を立て、解決に向けて、相手意識や目的意識を明確にして表現している。	
(3) 児童に示す姿（資質・能力）			
①木原の自然環境に変化があることがわかる。 ②昔と現在を比べ、未来を考える。	①相手に伝わるように表現する。 ②表現の工夫を取り入れる。	①問題解決のために友達と話し合う。 ②リーダーシップを発揮する。	

5 指導計画（全 21 時間 本時 20/21）

探究の過程	学習活動	評価規準（評価の方法）
課題の設定 （8時間）	木原の自慢 木原海岸を見に行こう。 ○話し合いで決定した活動目的「木原海岸の現状把握」で分かった実態について各自でまとめ、発表する。 生き物は今の時期どんなものがあるかたしかめよう。海草が多ければ海水もきれいなはずだ。海岸のごみや廃棄物はどうなっているかな。海水、生き物、ごみや廃棄物、砂浜の砂でそれぞれ確認してみよう。	①友達と活発に話し合いながら、活動の目的と照らし合わせて実態を整理し、良さと課題について考えている。（発言・メモ行動観察）

	木原海岸の実態調査でその良さと課題を話し合おう。 ○昨年度の木原海岸と比較しながら実物、写真、自分の体験をふまえて良さと課題を話し合う。 ○映像や写真を見て昨年度の学習を振り返り、3Rとの関連で活用できるものを確認する。 ○話し合いをもとにプロジェクト全体のテーマを決める。 紙とデジタルの選択 紙: 図書で調べる。調べたことを紙にまとめる。 デ: SNSなどを閲覧する。情報をテキストファイルにまとめる。 <学習の課題> 3Rは海岸のゴミの問題と繋がっているな。リサイクルできるものもあるけど、できない物が多いな。木原海岸の海を守るために木原に住むみんなによびかけて先輩や自分たちの思いを引き継いで考えてほしい。どうしたらいいかな。課題を話し合ってきめよう。 <プロジェクト全体のテーマ（課題設定）> 海洋ゴミをなくして、木原の海・砂浜・島の自然を守ろう <学習計画を立てる> 課題を達成するためにどうやって解決するのか計画を立てていこう。 ○5つの意識を明確にすることで計画を立てる手立てとしていく。 ①目的意識・・・木原の海・砂浜・島の自然を守るため ②相手意識・・・誰につたえるのか (木原の大人から子どもまで全ての人へ) ③場の意識・・・どこの場所で伝えるのか (木原ふれあいミュージアムで) ④方法意識・・・何を使って伝えるのか (先輩たちの資料や自分達のまとめた資料（紙）やデジタルデータをクロームブックで) ⑤評価意識・・・自分たちの思いが伝わったかどうかをどのようにして調べるのか (アンケート用紙を配付する。その場で感想を聞く。) 「木原ふれあいミュージアム」をつくって自分たちの思いを伝えたい。今の木原海岸の現状をまとめ、自分たちの思いをプレゼンテーションして校長先生を説得するため、さらに調べよう。 ○これまでの調査内容や総合ノート、写真、実体験だけでなくインタビューを行うなかで情報収集する。 紙とデジタルの選択 紙: 図書で調べる。調べたことを紙にまとめる。 デ: SNSなどを閲覧する。情報をテキストファイルにまとめる。 調べたことをもとに事実と考え、原因と結果を関係づけながら整理してみよう。 ○国語科で学習した「事実と考え」、「原因と結果」を活用して伝えたいことを整理・分析する。	知・思 ICT端末や図書や自分で調査した実態などを適切に使い分けながら、良さと課題を確認している。(行動観察、ワークシート) 主 友達と活発に話し合いながら、活動の目的と照らし合わせてプロジェクト全体のテーマ（課題）の設定をしている（発言・行動観察） 論 ICT 端末や図書や他者からの聞き取り、インタビューなどを適切に使い分けながら、設定した課題について解決するために必要な情報を取捨選択している。(行動観察ワークシート) 思・主 自分の考えが相手によく伝わるように、情報を丁寧に整理したり自
情報収集 (6時間)		
整理・分析 (3時間)		

	紙とデジタルの選択 紙 :付箋に書く。模造紙などを用いてKJ法で考えを整理する。 デ :SNSなどを閲覧する。情報をテキストファイルにまとめる。	分の意見を主体的に述べたりしている。(発言、行動観察、プレゼンテーション資料等)
まとめ・表現 (3時間)	木原の海・砂浜・島の自然を守りたい。だからこそ、今の木原海岸の現状と自分たちの思いを校長先生や木原小学校の先生方へ伝え、自分達の手で木原ふれあいミュージアムをつくる必要性を伝えよう。 自分たちの今の思いを提案書にして伝えよう。 ○自分たちの願いや訴えたいことを提案書にまとめる。 紙とデジタルの選択 紙 :図書で調べる。調べたことを紙にまとめる。 デ :SNSなどを閲覧する。情報をテキストファイルにまとめる。	☆思考力・判断力・表現力(行動観察・発言) 相手意識や目的意識を明確にして表現している。
(本時 20/21)	木原海岸の現状や木原ふれあいミュージアムをつくる必要性を校長先生や木原小学校の先生方へ伝えよう。 校長先生からの助言をもとに振り返ったことをもとにして、「木原ふれあいミュージアム」づくりに必要なことを整理しよう。	思・主 資質・能力に対する自らの変容に気付いている。(ワークシート・発言)
振り返る (1時間)	成果と課題をもとに、改善策を考えて次の活動への見通しをもつ ○校長先生からの助言や自分達の振り返りをもとに次への課題を再設定し、学習活動への見通しを立てる。	思・主 資質・能力に対する自らの変容に気付いている。(ワークシート・発言)
課題の再設定	「木原ふれあいミュージアム」をつくり、そこで自分たちの思いを木原のみんなへ伝えよう。	

6 本時の学習【20/21】

(1) 本時の目標

自分たちの課題解決のため、「めざす姿」を明確にしながら校長先生や木原小学校の先生方へ木原海岸の現状を伝える。発表の振り返りを行う中で「木原ふれあいミュージアム」実現への意欲を高める。

(2) 本時で育てたい資質・能力

ふるさと木原の課題解決に向けて、相手意識や目的意識を明確にして、「相手に伝わる表現の工夫」「相手にわかる内容」を活かしながら表現している。(表現力)

(3) 準備物

児童作成の資料 クロームブック 付箋 模造紙 など

(4) 他教科等との関連

5年生国語科「地域のよりよくを伝えよう」 「事実と考え」
 6年生国語科「永遠のゴミ プラスチック」 「原因と結果」

(5) 学習展開

学習 過程	学習活動	指導上の留意事項（・） ファシリテートの重点【項目】 個別に支援を必要とする児童への支援の手立て（◆）	○評価規準 （評価方法） ☆資質・能力
課題 把握	1 学習の目的と流れを確認する。 （発）：今日のこの授業は何のためにするのでしょうか。 自分たちの思いを伝えて、木原ふれあいミュージアムを実現させよう。 学習の見通し ①自分の意見を述べる。 ②意見に対して校長先生方に助言をいただく。 ③成果と課題を自己評価する。 ④全員で話し合い、整理したことを発表する。 ⑤整理したことをもとに振り返りを書き、意見交流して次時への見通しをもつ。 2 本時の目指す姿を確認する。 【目指す姿】＜相手に伝わるように表現する＞ 目線 表情 声量 ジェスチャー はやさ ＜内容がわかるように＞ 原因と結果 事実と考え 自分の主張 ＜振り返る＞ 積極的に友達と話し合う リーダーシップを発揮する	・本時の目的を児童一人一人に問い、実の場としての相手意識・目的意識を明確にして提案書を発表できるようにする。【Ⅰ－③】 ◆学習の流れを視覚的に示し活動の見通しをもたせる。 ・学習の流れの説明まではしっかりと教師が発言し、それ以降の進行は児童にしっかりと委ねることで主体的に学ぶことができるようにする。	
自 力 解決	3 一人一人が提案書を発表する。 （発）：目指す姿の表現と内容を意識して発表しよう。意識して発表を聞こう。 紙と実物 デジタルの選択 紙：調べたことを紙にまとめ発表する。 実物を提示して：大切な実物を見せながら言葉のみで発表する。 デ：調べたことをテキストファイルにまとめ発表する。 4 校長先生や外部の方から助言をいただく。（各2分程度ずつ） 5 自分たちの発表についての自己評価を付箋に書く。 6 付箋を思考ツール（座標軸）にはって成果と課題や改善点を明らかにする。 （発）：同じ考えの付箋を集めて意見をまとめよう。まとまりに名前をつけて成果と課題を整理しよう。改善策があれば書き込もう。 7 整理したことをもとに次への活動にむけて深まったことを書くことで学びを振り返り、意見交流から次の活動への意欲を高める。 （発）：新たな気づきや驚き、自分の中での発見、次への活用など今日の授業を終えて深まったことを発表しよう。	◆活動を通して身に付けたい力を「目指す姿」から確認できるようにする。自分の頑張りたい観点について声をかけることで意識づける。【Ⅱ－①】 ・友達の発表を「目指す姿」を意識させてしっかりと聞かせる。 ・「目指す姿」の表現と内容の項目を指標として全体的な評価を話していただき、児童の自己評価への指標とできるようにする。 ・付箋の内容を肯定的に評価して発言につなげる。 ◆同じ考え毎に付箋を集めていくことを伝え、成果と課題の傾向を視覚的に捉えられるようにする。対話により考えを引き出して付箋にかくよう促す。【Ⅲ－⑥】【Ⅲ－⑬】 ・本時での達成感と同時に課題意識を踏まえ、改善点を感じさせることで次の活動への意欲を高められるようにする。【Ⅳ－④】 ◆児童のよかった点について声かけをし、自らの変容や高まりに気付かせるなかで発表につなげる。	☆思考力・判断力・表現力（行動観察・発言）相手意識や目的意識を明確にして表現している。 ○思・主自分の考えが相手によく伝わるように、情報を丁寧に整理したり自分の意見を主体的に述べたりしている。（発言、行動観察等）
集 団 解決			
価 値 の 深 化			